

博士前期課程（修士） / 共通科目 / 共通科目

科目コード：200010

特別研究（看護デザイン分野） Special Research

担当教員	川島 和代				
実務経験					
開講年次	2年次通年	単位数	6	授業形態	講義・演習
必修・選択	必修	時間数	135		
Keywords	看護理論、看護実践、看護技術、デザイン				
学習目的・目標	《学習目的・目標》 学習目的：療養生活や日常生活の健康的な創造をめざしてあらたな看護をデザインするための独自の課題を明らかにし、研究するために修得した方法論を適用して一連の研究過程を辿り論文を作成することができる。学習目標：療養生活や日常生活の援助を行う実践の場面において、課題とされている看護現象について明らかにできる。修得した研究方法論を用いて課題を解決するためのアプローチを行い、データを収集できる。収集したデータを客観的・科学的に分析することができる。論文作成をするために指導教員や担当教員、院生同士で討議を行い、指導・助言を得て科学的な論文を作成することができる。研究過程の中で対象への倫理的な配慮が行うことができる。以上の一連の過程を学修する。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
	1. 療養生活や日常生活の援助を行う過程で、課題となる看護現象を明らかにする。 2. 文献検討や討論を通して、課題を解決するための独自のテーマを設定する。 3. 指導・助言を得て、看護実践する上で、どのように活用されるのか、その意義を明確にし、新たな実践上の根拠となり得るか吟味する。 4. 科学的な研究方法論を用いて、自己の課題にアプローチするための方法論を検討する。 5. 研究計画を立案し、中間報告を行う。 6. 指導・助言を得て、研究計画の修正を図り、倫理審査を受ける。 7. フィールド・対象を選定し、データ収集、分析を行う。 8. 論文作成の指導を受ける。 9. 研究の全過程において、倫理的な配慮を行う。			個別指導	川島
教科書	随時、文献紹介				
参考図書等	随時、文献・書籍の紹介				
評価指標	研究テーマについては十分な課題の検討が行われている。看護学的に意義のある研究テーマである。研究方法の一連の過程に科学的な方法論を用いている。看護実践をデザインするための基礎的な資料（根拠）となりうる知見がある。倫理的配慮を行うことができている。以上のことを踏まえた修士論文の完成度、最終試験				
関連科目	看護デザイン論、看護デザイン特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護デザイン演習A・B				
教員から学生へのメッセージ	研究方法論を修得し看護学研究をすることは、自己の疑問を明確にし、看護実践をより良いものに変えていく、宝物を掘り起こす過程であると思います。				